



三内丸山通信

世界文化遺産登録

登録記念式典・シンポジウム開催

令和3年7月、三内丸山遺跡を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」は、第44回世界遺産委員会拡大会合で世界文化遺産に登録されました。

日本で25件目の世界遺産となり、文化遺産では20件目となります。三内丸山遺跡センターでは、これを記念し、式典やシンポジウムを開催しました。

世界文化遺産登録記念シンポジウム「世界遺産登録から未来へ」これからの三内丸山」は11月20日(土)にホテル青森で開催され、多くの方にお越しいただきました。



【登録記念シンポジウムの様子】

岡田康博さん(青森県)からは「青森県の構成資産とその価値」三内丸山遺跡を中心として」と題した講演をいた

いただきました。取組事例の報告に大阪府の「百舌鳥・古市古墳群」世界遺産登録に貢献された福田英人さん(大阪府藤井寺市)、また、パネリストとして文化庁から二人の文化財調査官、鈴木地平さん・斉藤慶史さんにお越しいただきました。

パネルディスカッションでは、三内丸山遺跡の未来について、先述の方々に遺跡の活用や保存について活発な意見交換をいただき、青森県の宝である三内丸山遺跡を守り、活かす方法などが示されました。来場された皆様は熱心に耳を傾けていました。

当日の様子は、当センター公式YouTubeで今後配信予定ですので、ぜひご覧ください。

さんまるミュージアム展示替え「土器展示」がすべて重要文化財に!

御来場の皆様にもっと多くの重要文化財を見ていただくため、9月の臨時休館中に、土器展示の展示品をすべて重要文化財に入れ替えました。

土器の展示の変更は、美術専門の運搬員と作業を行いました。重要文化財を収蔵している特別収蔵庫から慎重に運び出し、土器の展示台の最上部から順番に土器を配置し、27



【新しくなったさんまるミュージアム「土器展示」】

企画展 「縄文人と数」を開催します

数は、ものの順番や、個数の把握から、次第に食料の分配、交易、土地の測量、建設工事などへとつながるため、文化の特性を表しています。

この企画展では、三内丸山遺跡から出土した展示品から、縄文人の数に対する考えに迫ってみたいと思います。

例えば、土器の口縁に付く突起は、縄文時代に特徴的な装飾です。この突起の数は、縄文時代前期から中期までは、2つ、4つの偶数が多いです。中期後半になると、3つや6つの突起がみられるようになります。

これ以外にも、様々な出土品にみられる「数」を紹介します。

「土偶をつくらう」等、企画展関連イベント等については、ホームページ等でお知らせします。また、土日祝日は、ギャラリートークを開催する予定です。ご参加お待ちしております。



口縁に6つの突起がある土器
【重要文化財 深鉢形土器 (三内丸山遺跡)】

令和3年度企画展「縄文人と数」

会場 三内丸山遺跡センター企画展示室
会期 令和4年1月22日(土)～令和4年4月3日(日)
観覧時間 9:00～17:00 (最終入館は16:30まで)
休館日 1月24日(月)、2月28日(月)、3月28日(月)
観覧料 常設展観覧料でご覧いただけます。
※中学生以下は無料です。

今年度の発掘調査終了!

昨年度に引き続き、遺跡北端部では、溝状遺構の規模と構造を詳しく調べ、南の谷北側地区では、竪穴建物跡の分布状況を調べました。

遺跡北端部の調査成果

溝状遺構は、これまでの調査で2本（第315号と第316号）みつかったていて、縄文時代中期末葉（約4,200年前）以前につくられた可能性が高いことがわかっていきます。遺跡北側の台地の縁に近い場所で、東西方向に延び、東側の沢地形（谷のような地形）に落ち込むようにつくられています。



【溝状遺構底面の両端にある柱穴】

赤色線の間：溝状遺構の範囲（破線は推定線）
黄色線の間：柱穴／柱穴列の範囲 水色線：底面のライン

今年度は、これまでみつかった2本の溝状遺構のうち1本（第316号）が幅約7mあり、長さが70m以上続いていることや沢地形に近い東側では深さが約120cm

さらに、柱穴を何回も作りかえた痕跡や、砂が流れ込んで溜まった状況など、溝状遺構が使われていた時の様子を示す痕跡も少しずつみえてきました。

と深く、西側にいくにつれ浅くなっていくことがわかりました。底面中央部が凹み、そこに向かって緩やかに傾斜する形状（写真水色線）をしています。また、溝状遺構底面の両端部に沿って柱穴が列状に並ぶ状況も確認しています。こうした状況は、この遺構の最大の特徴であり、全体にわたって同様であった可能性が高いことが今回の調査を通じてわかってきました。

このような遺構は、縄文時代では全国的にほとんどありません。底面両端にたてられた柱は何のためか、そもそも溝状遺構が何のためにつくられたかなど、これから明らかにしていくべき点が多くあります。

南の谷北側地区の調査状況

竪穴建物跡の分布状況を調べましたが、明確な竪穴建物跡は確認できませんでした。遺跡北端部は、今年度で調査終了となりますが、南の谷北側地区では、来年度調査範囲を広げ、調べる予定です。詳しい調査成果は、発掘調査速報展（3月12日～6月26日）や遺跡報告会（3月12日）で報告する予定です。こちらをご期待ください。

特別展 「あおもりの縄文世界」 閉幕!

令和3年7月17日から令和3年11月28日まで、特別展「あおもりの縄文世界」を開催しました。この展覧会では、7月に世界文化遺産に登録された「北海道・東北の縄文遺跡群」の構成資産をはじめとする青森県内の縄文遺跡の出土品274点を展示しましたところ、多くのお客様から御好評いただきました。今後も三内丸山遺跡や縄文文化についてより深く知っていただけるような展示を企画していきますので、ぜひご覧ください。企画展・特別展の情報は、随時ホームページやSNS



【「土偶を作ろう」の様子】

「さんまる縄文体験」は、発掘やものづくりをとおして三内丸山遺跡や縄文文化にふれる体験学習です。1月22日（土）には、三内丸山遺跡で出土した土偶を参考にしながら、自分だけのオリジナル土偶を作る「土偶を作ろう」を開催します。また、

さんまる縄文体験のお知らせ



【展示の様子】

NS、チラシでお知らせします。

さんまる縄文体験 今後の予定

メニュー	開催日	時間	定員	申込締切
土偶を作ろう	1月22日(土)	13:00~15:00	10名	1月6日(木)
ドッキーを作ろう	2月11日(金)	①10:00~12:00 ②13:00~15:00	各回5名	1月26日(水)

*対象は小学3年生以上（小学3・4年生は保護者の同伴が必要）です。

2月11日（金）には、土器の破片にそっくりなクッキー、ドッキー作りを行います。ものづくりを楽しみながら、土偶や土器について学んでみませんか？皆様の参加をお待ちしています！なお、体験は事前申し込み制です。申し込み方法は、ホームページをご覧ください。お問い合わせください。

三内丸山遺跡センターのご案内

臨時休館やイベント等が延期・中止となる場合があります。ご来館の前に、最新の情報をホームページ等でご確認ください。

開館時間（入場は閉館の30分前まで）
10月～5月（GWを除く）：9時～17時
GW・6月～9月：9時～18時

見学料
一般410円(330円)
高校生・大学生等200円(160円)
中学生以下無料
※()は20名以上の団体
※特別展の観覧料は別途

休館日
毎月第4月曜日
(第4月曜日が
休日の場合はその翌日)
12月30日～1月1日

公共交通機関

・青森市営バス
JR青森駅から⑥番乗り場 三内丸山遺跡線
三内丸山遺跡前で下車 料金310円 約30～40分
・ねぶたん号
JR新青森駅東口 三内丸山遺跡前で下車 料金300円 約15分

さんまるミュージアムの定時案内

当面の間、休止します

ボランティアガイドの定時案内

1回目は9時15分から 2回目以降は、10時から1時間ごと
※4月～9月は、16:00出発、
10月～3月は15:30出発が最終となります。
お問合せ先：三内丸山応援隊 017-766-8282

ほったてばしらたてもの 復元掘立柱建物長寿命化工事のお知らせ

現在、老朽化した復元掘立柱建物の長寿命化対策工事を実施中です。工事の期間、復元掘立柱建物（3棟のうち、東側の1棟）は仮設足場に囲われ、見学できません。皆様にはご不便をおかけしますが、ご理解、ご協力をお願いします。



【復元掘立柱建物】

【工期】令和4年3月31日（木）まで

※大型掘立柱建物、大型竪穴建物は通常どおり見学できます。